

# アツブタガイ

*Cyclotus campanulatus* (Martens)  
新生腹足目・ヤマタニシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

アカマツ林やコナラ林等の暖温代償植生がスギ植林に改変され分布域が極めて限られ、生息条件が著しく悪化している。

## 分布

埼玉県と本州中部以西、四国、九州に分布する。県内では、滋賀県や京都府との県境の低山帯の一部に分布する。

## 種の特徴

殻高 10 mm、殻径 14 mm 程度。殻は光沢のある濃い茶褐色で、硬質低円錐形の右巻き貝類。石灰質の蓋は厚く 1mm となり、多旋型である。温暖なやや乾燥した落葉樹林の落葉下や石の下等に生息する。

## 生息を脅かす要因

林道や道路建設砂防ダムや公園整備等による生息環境の改変や、極度の乾燥が主な要因である。

参考文献 福井県編 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1985)、東 (1995)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○												

# ナタネキバサナギガイ

*Vertigo eogea eogea* Pilsbry  
異鰓目・キバサナギガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

## 選定理由

最近、敦賀市の中池見湿地に生息していることがわかった。中池見湿地での生息状況は安定しているものの、生息環境は湿地内の湿潤な落葉下に極限されている。

## 分布

北海道、本州、四国に分布。県内ではこれまで 1993 年の杉津産や、1953 年に採集された標本が唯一の記録であったが、最近、敦賀市でのみ確認されている。

## 種の特徴

殻長 2 ~ 2.5 mm、殻幅約 1 mm、巻数 3.5 回の微小陸産貝類。殻は太短い円筒形で半透明の茶褐色。体層は大きく、各螺層はよく膨らみ、螺頂は丸い。殻口は半月形で外唇中央部が浅く湾入する。成熟すると殻口内に計 6 本の歯ができ、殻口縁は強く反転する。

## 生息を脅かす要因

本種は休耕田等の湿潤な落葉下に生息するため、植生遷移等により湿地が乾燥化すると生息環境が失われる。また、このような環境は水位の変動による影響を受けやすいため、湿地上流部や集水域等の湿地周辺の水源の開発も減少要因となりうる。

参考文献 環境省編 (2014)、藤野・金尾 (2014)、金尾・中井 (2011)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

# ヤマトキバサナギガイ

*Vertigo japonica* Pilsbry & Hirase  
異鰓目・キバサナギガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

## 選定理由

県内では奥越山地、池田町で確認されているが、分布は非常に局地的である。また、微小貝であるため調査も困難である。さらに、生息環境である林床の湿潤な生息環境条件は悪化しており、個体数もかなり少ない。

## 分布

北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では 1952 年に勝山市北谷、1999 年と 2002 年に池田町東青の自然林の溪流沿いのやや乾燥した斜面状で確認されている。

## 種の特徴

殻高 1.7 mm、殻径 1 mm、巻数 4 回の微小貝。殻は平滑で光沢がある淡褐色の円筒形。半月状の殻口には 4 本の歯状突起があるのが特徴である。

## 生息を脅かす要因

林道整備による森林伐採等生息地周辺の開発による森林の乾燥化が、主な要因となっている。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)、環境省編 (2014)、福井県編 (2002)、窪田 (1962)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○			○			○		

陸産貝類